

## 「十二指腸の観察」

小学校でも人体を扱う単元はいくつかあります。しかし人体は、学習者自身に最も近い自然でありながら、子どもが直接観察することはほとんどできません。それは教師自身も同じです。自分の体の内部のことは、ほとんど何もわからないわけです。

軽井沢病院の人間ドックで、内視鏡検査を受けました。いわゆる胃カメラです。(正式には上部消化管内視鏡といいます。)口からは一回やって死ぬほど苦しかったので、その後は経鼻内視鏡にしてもらっています。口か鼻かといったら、内視鏡は鼻のほうが絶対に楽だと断言できます(鼻がいいですよ鼻、鼻、鼻!!)。胃カメラをのんだことがない人の為に、手順を詳しく紹介しましょう。

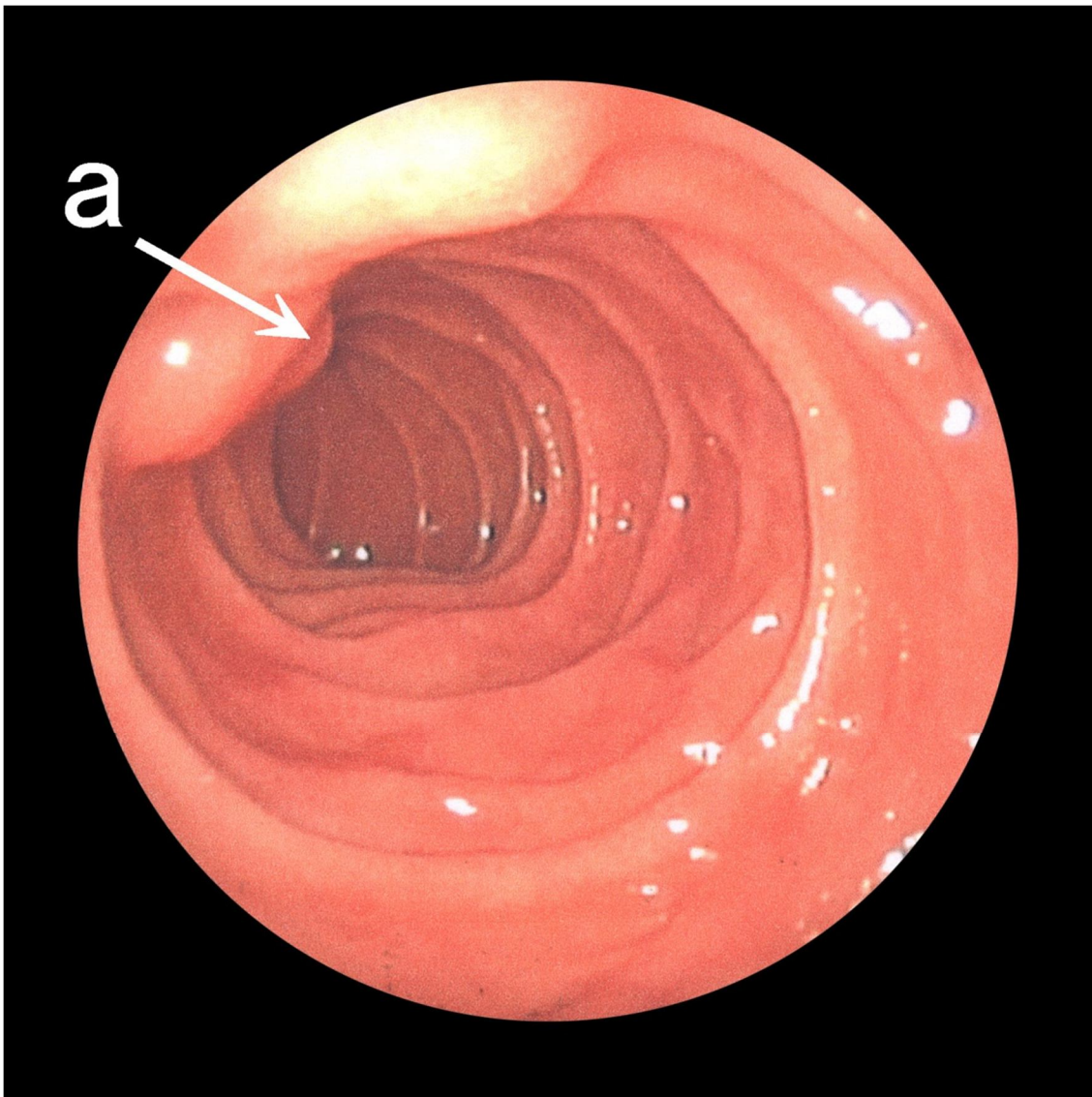
### 【重要】

#### 【経鼻内視鏡の検査手順】(軽井沢病院の場合)

- ・検査日前日の21時から、飲食は一切禁止です。水や麦茶はOKです。
- ・当日、まず血圧を測定します。経鼻鏡は、鼻孔にかなり負担がかかるので、血圧が高すぎると鼻血が出ることもあるのでNG。その場で経口鏡に変更になってしまいます。
- ・胃と腸を洗浄する為、コップ1杯の液体を飲むように言われます。超まずいです。
- ・血圧が合格すると、鼻に1つ目の薬(鼻孔を開きやすくする薬)を注入されます。
- ・しばらくして、2つ目の薬(キシロカイン=局所麻酔薬)を注入されます。非常に苦いです。のどにあふれた薬剤は「飲み込みなさい」と言われます。
- ・口腔全体に膨満感を感じ、唾液を飲み込めなくなります。(これが結構苦しい!)
- ・肩に胃の活動を抑える薬剤を注射されます。筋肉注射なので、ちと痛いです。
- ・いよいよ恐怖の内視鏡室へ。左耳を下にした姿勢で横になります。
- ・「は〜い、いきますよ〜」と言われ、鼻から内視鏡がどんどん入っていきます。看護婦さんが管に潤滑剤を塗り続けています。鼻やのどに痛みはほとんど感じません。
- ・胃に達すると、違和感があるのでわかります。おなかに何か異物が入っていることが、感覚でわかり、ちょっと気持ち悪いです。
- ・看護婦さんが肩の力を抜くようにアドバイス。背中をずっとさすってくれます。
- ・十二指腸に達すると、今度は戻りながら撮影。胃だけは空気を入れてふくらませないと撮影できません。この時、ゲップを我慢するのが大変です。
- ・検査が終わって、ゆっくり引っ張り出して終了。あ〜苦しかった・・・。
- ・検査医からその場で画像を見ながら説明。「ミクロの決死圏」の映画を見ているような気分でした。軽い逆流性食道炎以外、正常でした。
- ・説明後、胃の薬を出してくれました。(こういう場合もあるので、保険証必携!)
- ・のどに麻酔が効いているので、1時間ぐらひは飲食できません。腹へった〜。

・・・と、まあ、こんな感じです。なかなか面倒な手順です。内視鏡をやったことない方、是非やってみたくなっちゃったでしょう！？「内視鏡は回数を重ねれば慣れる。」と言われてますが、私の場合ぜんぜん慣れません。特に今回は、私の前の順番のご婦人が、検査中に苦しくて泣き叫んでいたのもう恐怖指数 MAX でした。しかし、自分の体の中・・・特に消化器内部を見られるのは一年に一回、この時だけで、貴重な体験と言えます。

私は自分の十二指腸の画像に興味を持ちました。検査医に頼んで、プリントアウトしてもらいました。理科教師根性で、教材に使えるかな・・・と思ったからです。医師は「そういうことを頼む人は珍しい。」と呆れていました。どうぞ授業で使ってください！



### 「田中千尋の十二指腸」

胃の出口（幽門）あたりから見た様子です。aの突起は決して「潰瘍」ではなく、胆汁や膵液が分泌される場所（大十二指腸乳頭）です。十二指腸そのものからも、エンテロキナーゼが分泌されます。十二指腸では、タンパク質、脂質、炭水化物が分解されます。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）